

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項
なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項
【特筆すべき事項】 全学でGPA制度を導入したことは高く評価でき、特筆に値する。一般論としてGPA制度導入の目的は「学生の学ぶ意欲の助長」、「学生の目的意識的・計画的な学びの助長」、「学生の成績評価の厳格化」など多様でありうる。そこでGPA制度の具体的な活用の在り方が問われることになる。法学部の点検・評価シートの「目標達成の指標」欄に、「全学でGPA制度が導入され、各種の選考等で活用されている」との記述がある。そうだとすると、たとえばGPAのあるポイントを基準点に設定して、進級・卒業の条件、教育実習履修の許可条件、留学の許可条件、奨学金支給ないし継続支給の認定条件など「学生個人の権利ないし利害にかかわる事項の許可・承認の条件」として活用していることがすでにあるのかもしれない。そうした場合、その理論的根拠、正当性、教育指導上の適否等が問われることになるので（説明責任）、十分な検討をお願いしておきたい。 【改善提言】 シラバスに関しての問題の一つは、学生がシラバスを読み、理解し、活用しているかどうかである。大学の点検・評価シートの「改善すべき事項」欄に、「本学はWebシラバスを導入しポータルサイトで公開しているが、学生のアクセスが十分でない」との記述がみられる。経営学部のシートには、「履修前にシラバスを読んでもくる学生はほとんどいない」と記述されている。国際関係学部は「シラバスを読んでもくる学生 目標達成の指標：70%」を掲げている。このような取り組みが全学に広がることを期待したい。
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記） 学部・学科 FD 委員を中心に、教育方法や学習指導（例：学生の主体的参加を促す授業方法）についての研修を企画し、学部・学科教員間でのそれらのテーマに関する情報共有・意見交換を行う。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。 【自己評価 A】
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	本学部では、学生の主体的参加を促す授業方法については、各教員が授業の特性に応じた方法を検討するとともに、主体的な学びの重要性や有効性を学生に理解させることを意図して、演習形式の授業を重視し数多く配置している。 スポーツ科学科では、カリキュラムに設定されたスポーツ科学分野の特色を踏まえ、それぞれの授業内容に適した授業形態（講義・実技・演習・実験等）を採用し、シラバスに明示している(A4-3-1)。学生の主体的参加を促す授業方法として、3・4 年次を対象とした演習系授業（各種コーチングおよびスポーツ科学演習）により、1・2 年次に修得した理論・実技をもとに、より専門的なスポーツ技能および指導法の修得、実験実習を含むスポーツ科学理論とその実践的応用の学習を可能としている。これら演習系授業ならびに 3・4 年次にゼミナールにおいて取り組む卒業研究は、学生自ら行う実験・調査・分析・成果の発表といった授業方法を通じて、学生の主体的な学びを実践している。
-------	--

	授業効果を高める方策の一環として、受講者数の偏りを防ぐべく、学科教務委員会において次年度の時間割調整を行い、いくつかの実技・演習系授業では受講者数の調整を行っている。1～3年次の履修登録の上限は44単位、4年次の履修登録の上限については、2014年度入学者から49単位と設定した（A4-3-2 第23条の27第2項、B4-3-55 d2-表20）。 健康科学科では、講義と演習・実習を組み合わせた形態で授業を行っている。授業の形態と方法についてはシラバスに記載し、初回授業にて詳細に学生周知をはかっている。本学科は、臨床検査技師を目指す学生が大半のため1クラスおよそ100名程度の受講者がいる。ただし、語学科目（「英語A」および「英語B」）に関しては25人のクラス制である。 教育体系については、1年次には基礎医学系の科目を中心にした科目を中心に展開し、上級学年に進行するに当たって、臨床検査技師・食品衛生管理者・第2種作業環境測定士の資格取得に向けた専門教育科目・資格科目を展開し、理論と実践の充実に努めているところである。なお、履修登録の上限単位数は、1～3年次が48単位、4年次が49単位までと定めている（A4-3-2 第23条の27第2項、B4-3-55 d2-表20）。 履修科目登録は、各学年の履修方針を教務委員会において確認した上で、学期開始時に学年ごとに行われる履修ガイダンスを通じて、履修の目的から具体的な時間割の作成に至るまで詳細な説明が学科主任、教務委員および担当職員からなされている。また、履修登録までの期間、オフィスアワーなどを活用して学生の資格取得に向けた相談などにも応じており、適切かつ的確な履修に向けたきめ細やかな修学指導がなされている。
4-3-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （1）教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用について【×】 具体的事例： （2）履修科目登録の上限設定、学習指導の充実について【×】 具体的事例： （3）学生の主体的参加を促す授業方法について【×】 具体的事例：
4-3-2	シラバスは、全学統一の書式で作成している（A4-3-1、B4-3-19）。スポーツ科学科では、「シラバスセルフチェックシート」を作成して教員に提示し、授業内容・方法とシラバスの整合を図った（B4-3-23）。さらに、シラバスの記載状況をチェックする体制を学科内に整えた。“シラバスセルフチェック”は、平成25年度から取り組みを開始しており、チェック体制、実施時期、チェックシートの内容・記載方法について毎年度検討し改善を図ってきた。それらを経て、平成28年度の実施時期は、全学的な取り組みとして設定されている次年度シラバス作成・提出期限（1月上旬）に合わせて11月～12月上旬にかけてチェックシートならびに各教員がチェックする前年度シラバス原本を用意し、学科協議会等を通じてシラバスチェックの作業について確認し、実施している。健康科学科では、教務委員会によりシラバス作成の目的や記載の留意事項について確認・検証作業が行われた。これらの検証作業により、授業科目の到達目標・授業計画の明示・準備学習の内容・成績評価基準および成績評価方法・参考文献等の記載は、ほぼ遺漏なく行われている。授業内容・方法とシラバスとの整合性については、2016年度の「学生による授業評価アンケート」で、「Q8教員はシラバスを授業に反映させていたか」の問いに、学部平均で60.7%の学生が肯定的な回答をしている（B4-3-55 d2-表23）。
4-3-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （1）シラバスの作成と内容の充実について【×】 具体的事例： （2）授業内容・方法とシラバスとの整合性について【○】 具体的事例：スポーツ科学科では、教職課程再認可に向けて、関連科目のシラバスについて、学科主任および教職関連科目担当者により、教職に関する科目編成および各科目の目的に則ったシラバスの記載がなされているか、再点検を行っている。
4-3-3	本学部では、シラバスに評価方法・評価基準・評価の割合を明示し、学生に周知を図るとともに、学則に定めた単位制度の趣旨に基づいて、適切に単位認定を行っている（A4-3-1、A4-3-2 第21条）。また、国家資格関連の専門科目については、国家試験に対応するための横断的科目として「要説臨床検査学A～E」（資格科目）を設置し、厳格な成績評価に基づいた単位認定を行い学科協議会にて報告している。既修得単位の認定は、学則に基づき、教務委員会で厳格な審査を行い、教授会で決定している（A4-3-2 第19条の2～4）。
4-3-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （1）厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）について【×】 具体的事例： （2）単位制度の趣旨に基づく単位認定について【×】 具体的事例： （3）既修得単位認定について【×】

	具体的事例：
4-3-4	スポーツ・健康科学部では、授業の内容・方法の改善を図る本学科教員のための組織的研修として、2013 年度に公開 FD 講演会「大規模講義における効果的なプレゼンテーションのコツ」（講師：英米文学科宮瀧交二教授）を実施した（B4-3-43）。また、2014 年度および 2015 年度には、公開 FD 講演会「大学生における発達障害、精神障害」と題して、外部講師として日本大学工学部・種ヶ嶋尚志准教授（臨床心理士）講演と、本学職員（本学学生支援センター東松山学生支援課課長）による現状報告を行った（B4-3-43）。 スポーツ科学科は、毎年全学で実施する「学生による授業評価アンケート」の結果を、教員にフィードバックして授業改善に結びつけるよう努めるとともに、FD 委員会では評価結果を分析し、学内外に公表している（B4-3-24 p.15～p.27）。また、教育内容・方法の改善をはかる FD 活動として、2011 年度に「初年次教育を考える」「キャリア教育を考える」、2012 年度「学科の教職教育について考える」「学科の全体集会を通じた学生指導」、2013 年に「スポーツ・体育における体罰問題について、スポーツ科学科授業での取り組みを考える」というテーマで研修会を実施した（B4-3-44）。 健康科学科では、2011 年度に FD 講演会「アレルギーと食品とストレスの関係」、2012 年度「教員間による授業参観」を行った。また、スポーツ科学科同様、毎年全学で実施する「学生による授業評価アンケート」の結果を教員にフィードバックして授業改善に結びつけるよう努めるとともに、学科独自の「健康科学科授業評価アンケート」を実施し、その結果を健康科学科の FD 委員会の教員が中心になって分析し、教育内容・方法や学科運営の改善につなげている（B4-3-24 p.15～p.27）。
4-3-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （１）授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施について【○】 具体的事例：2016 年度の FD 研修会として、健康科学科では、「学生指導について意識しなければいけないこと」を実施した。スポーツ科学科では、FD 研修会「スラックライン実技講習」を実施した。（根拠資料：教授会での報告）また、健康科学科では、学生の主体的参加を促す授業方法のひとつとして、臨床検査値のみから症例の病態を推察して討議する RCPC（Reversed Clinico-Pathological Conference）を紹介し導入を検討した。（根拠資料：9 月開催の学科協議会議事録） 2017 年度は、スポーツ科学科は 2020 年のオリンピック・パラリンピックを迎えるに当たり、“オリ・パラ”に対する学生の関心を高めるために、オリ・パラ教育のあり方について研修を行う予定である。健康科学科では 2017 年 9 月 5 日、2018 年 3 月下旬での FD 研修会を予定している。（根拠資料：教授会での実施報告）。 （２）教育方法の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	スポーツ科学科における教職課程再認定に際し、関連科目のシラバスについてチェック基準に基づいて綿密なチェック作業と、それに応じた修正作業が求められる。
4-3-3	
4-3-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-2 シラバスの記載内容が学生に 周知徹底されている。	学生による授業評価アンケートの設問： 「シラバスの内容を理解しているか」への 肯定的な回答の割合。	→		S	C	
	授業評価アンケートの結果の活用方法 や具体的な授業改善について検討 する。	授業評価アンケートの結果を分析し、そ れを踏まえた授業改善が具体的に提言さ れる。	→		A	C	
16 年度 目標	4-3-2 カリキュラムによる科目編成 および各科目の目的に則ったシラ バスの記載がなされているか、科 目間の連動性・整合性の点から、	シラバス作成手順について学科会議にて 確認			A		

	教務委員会を中心として再点検を行う。	
17 年度 目標	4-3-2 スポーツ科学科では、現在確立しているシラバスセルフチェックの体制を、教職課程再認定におけるシラバスの見直しに合わせて、チェック項目を見直して改善を図る。 4-3-2 健康科学科では授業運営および定期試験に関する基本事項を策定する。	2018 年度用シラバス 策定案の教授会承認

			S	
			S	

IV 評価専門委員会所見

4-3-4【現状】 両学科ともに独自の FD 研修会を実施するなど、FD 活動に精力的に取り組まれている点は高く評価できます。今後とも他学部の模範となるよう期待しています。

V 所見への対応

--

VI 次年度への課題

中期目標「4-3-2 シラバスの記載内容が学生に周知徹底されている。」および「授業評価アンケートの結果の活用方法や具体的な授業改善について検討する。」については、今年度の授業評価アンケートの実施方法が Web 方式に変更された影響があつてか、回答率が例年に比して著しく低かったため、十分な取り組みがなされなかった。次年度は、この点を踏まえ、学科独自のアンケート実施も検討しながら取り組むつもりである。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-3-1 大東文化大学・大学院シラバス (CD-R) 大東文化大学ホームページ (Web シラバス) http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html 《既出》A4-2-16 A4-3-2 大東文化大学学則 《既出》A1-1 A4-3-10 スポーツ・健康科学部 羅針盤（履修の手引き）2017 B4-3-19 2017 年度シラバス（授業計画）の作成依頼について B4-3-23 シラバス〔授業計画〕チェックシート（スポーツ科学科） B4-3-24 学生による授業評価アンケートと大学教育 2016 年度 《既出》B3-12 B4-3-25 ファカルティ・ディベロップメント委員会規程 B4-3-26 大学ホームページ 授業評価アンケート報告書 http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/jugyohyoka_houkokusho.html B4-3-27 2016 年度大東文化大学卒業生アンケート結果 B4-3-28 FD 報告書 2016 年度 B4-3-29 大学ホームページ（卒業生アンケート）http://www.daito.ac.jp/sotsugyosei_ankeito.html B4-3-30 大東文化大学 FD 研究会（FD フォーラム）参加者数推移（2010～2014） B4-3-31 FD ニュース第 9 号 B4-3-43 スポーツ・健康科学部 公開 FD 講演会、公開 FD 研修会（開催案内） B4-3-44 スポーツ科学科 FD 勉強会、第 1 回健康科学科 FD 研修会議事録（2013.6.14） B4-3-53 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html 《既出》B1-16 B4-3-55 大学データ集 《既出》B1-22
〔追加資料〕